

自転車のまちを応援するシステムを開発

～町新技術研究会の取り組みを紹介します～

製造業やIT企業4社によって構成される町新技術研究会は、大学などの協力を得ながら競技用自転車トレーニングシステム「Shi Waterc SS」の開発に取り組んでいます。同システムを自転車に取り付けて走行すると、加速や動きの軌跡などのデータが即時にパソコンへ送られることから、走行時の課題がすぐに判明し、修正することができます。

「自分たちの技術で町の活性化に貢献したい」という思いで平成25年に結成されたという同研究会。(株)KRMユニファクトリングジャパン(岩崎正)代表取締役、(有)ホロニックシステムズ(檜山稔代表取締役)、(株)東北パワーシエクト(浅沼和彦代表取締役社長(いずも紫波町)と(株)ピーアンドエーテクノロジーズ(大関一陽代表取締役、盛岡市)で構成され、それぞれ全体監督、プログラム作

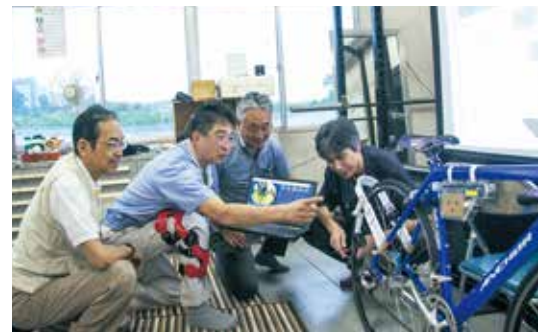


町新技術研究会のメンバーと、開発に協力する皆さん

成、外枠の構造設計、基盤設計を担っています。

紫波総合高校自転車部は「Shi Waterc SS」の試用品を使って練習に励んでおり、選手や顧問の先生からは「定量的に分析ができる」「体調や心理面の変化にも気付くことができる」と高評価を得ています。現在は、選手や顧問の先生からの意見をもとに、来年2月の完成を目指して改良を続けており、同システムが競技力向上に役立ち、同校から東京オリンピックの選手が選出されることを期待しています。

研究会の会員たちは「自転車だけではなく、他のスポーツにも応用していきたいです」と展望を語ります。同研究会は鶏舎遠隔監視システムや工場用モーションセンサー開発を行った実績もあり、今後の動きに期待されます。



毎月1回の定例会時にシステムの改良を行う構成員たち



キラッと★ちゃ・ちゃ・ちゃんねる



このコーナーでは毎月、町の子育て支援情報など、「子ども」に関する情報をお伝えしています。今回は先月号に続き、町内の児童施設で、日々の体験の中からさまざまなことを学び、「生きる力」の土台となる力を育てている子どもたちの様子が垣間見える一場面を紹介します。

育ちの芽 vol.3

最近、給食の時間になると、体を揺らしてお皿を指さしたり、ご飯が運ばれてきた様子に声上げて喜びを表したりするようになったAちゃん(1歳7カ月)。この日もメニューのみそ汁の具材を何度も確かめるようにのぞきながらスプーンですくって飲んでいくAちゃんに、保育者が「うれしいね」「おいしいね」と声をかけると、笑顔で手を振って喜びを表現していました。

汁がほとんど無くなってくると、Aちゃんは残った具材をどうにか食べようと試行錯誤。手づかみで食べてみたり、手でナスを掴んでスプーンにのせてみたり、お椀を傾けてスプーンにのせようと試みたりと、さまざまなやり方でスプーンを使うことに何度も挑戦してみます。スプーンを口に運ぶたびに保育者に笑顔を見せ、自分で考えながらスプーンで食べようとするAちゃんの姿からは、**安心できる環境の中で育まれた食に対する意欲や、自分の知っているやり方に加えて新しいことを試そうという気持ちの芽生え、スプーンの仕組みを理解しようとする姿勢など、さまざまな力が育っている**と考えられます。

～認定こども園ひかりの子・0歳児クラスから～

保育者のまなざし 0歳児の中でも月齢の高いAちゃんは、徐々に体を自由に動かせる面白さを味わうようになり、探索行動が活発になってきました。そのことによって食べる量が増え、食材への興味も増えてきた様子。以前は「食べたい」という欲求から、手でつかんだり、握ったりして食事をしていましたが、今ではスプーンを使う他者を見て真似て、「自分で(食べたい)」という意欲が高まっていることを感じています。Aちゃんの思いを大切に、楽しい雰囲気の中で、今必要な環境を整えながら、安心して食事ができるように関わっていきたいと思います。



皿を傾けてスプーンにナスのをせようとするAちゃん



スプーンを口に運び、先生に笑顔を見せるAちゃん

※今後も不定期で、各児童施設での子どもたちの様子を紹介します。